

パリでの COP21 緊急報告会に参加して (報告書)

(特非) 環境カウンセラー全国連合会 (E C U) 理事長、佐々木進市さまより、私も会員である「ふくおか環境カウンセラー協会」に連絡が入った。

12月12日、パリでの COP21 で世界150ヶ国の参加国全員の一致で採択されたパリ協定の日本交渉団の環境省地球環境局国際地球温暖化対策室、福井和樹様より報告を受け意見交換会を行う、とのこと。

これは行かねば、そして世界の最先端に触れ、これからの議員活動とボランティア活動への糧とせねばと早速申し込みをした。



3月5日、神田駅の北口の「エッサム」というビルの一画で、約20名の全国から馳せ参じた環境カウンセラーが、COP21 の交渉担当者である環境省地球環境局国際地球温暖化対策室長、大井通博 (急遽変更) さまの講話にのめりこんだ。

京都の地球変動の議定書 (COP3、1997年) 以来の枠組み構築に向け、パリで世界の首脳たちが集まり2週間に及ぶ交渉の元、採択に成功した協定の臨場感に満ち満ちたお話、感動した。

COPの歴史から始まり交渉の経緯と内容の説明が、交渉過程の難しいやり取りをはさみながら報告された。

内容は以下の通りである。

COP21におけるパリ協定の採択

● COP21(11月30日~12月13日、於:フランス・パリ)において、「パリ協定」(Paris Agreement)を採択。

✓「京都議定書」に代わる、**2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組み**。

✓歴史上はじめて、**すべての国が参加する公平な合意**。



●安倍総理が首脳会合に出席。

✓**2020年に現状の1.3倍の約1.3兆円の資金支援**を発表。

✓2020年に1000億ドルという目標の達成に貢献し、合意に向けた交渉を後押し。

●パリ協定には、以下の要素が盛り込まれた。

✓世界共通の**長期目標として2°C目標の設定**。**1.5°Cに抑える努力を追求すること**に言及。

✓主要排出国を含む**すべての国が削減目標を5年ごとに提出・更新**。

✓我が国提案の二国間クレジット制度(JCM)も含めた**市場メカニズムの活用**を位置付け。

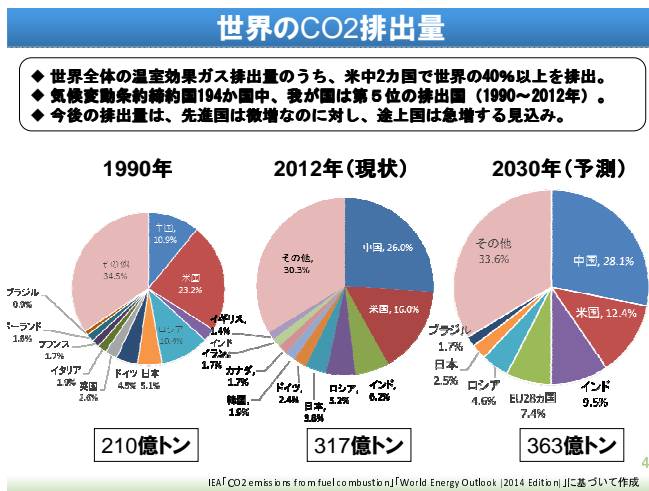
✓**適応の長期目標**の設定、各国の**適応計画プロセスや行動の実施**、**適応報告書の提出と定期的更新**。

✓先進国が資金の提供を継続するだけでなく、**途上国も自主的に資金を提供**。

✓**すべての国が共通かつ柔軟な方法で実施状況を報告し、レビュー**を受けること。

✓5年ごとに**世界全体の実施状況を確認する仕組み**(グローバル・ストックテイク)。

- ①京都議定書との大きな違いは、最大のCO2排出国である米中が参加したということ。
これだけで世界の排出量317億t（2012現在）の42%に達し、実効性が担保されること。
- ②地球温暖化の世界の長期目標として産業革命前からの地球平均気温上昇を2℃と目標値を設定。
- ③同じ目標値で全体を縛るのではなく、各国が自らの削減目標値を設定し、それに向かって努力することで決着。
- ④日本の削減目標は2030年に2013比△26%（エネルギー部門△28%、家庭・オフィス部門△40%）を決定。
これに向かって政策を立てることとなった。



パリ協定の特徴・意義

**すべての国に適用され、
(Applicable to all)**

従来の二分論を超えて、「共通だが差異ある責任」原則の適用を改善

- ・多くの規定が「すべての国」に適用
- （一部に「先進国」「途上国」の書き分けが残るも、具体の定義なし）

**包括的で、
(Comprehensive)**

緩和(排出削減)、適応、資金、技術、能力向上、透明性の各要素をバランスよく扱う

- ・緩和、適応、資金に関する3つの目的を規定

**長期にわたり永続的に、
(Durable)**

2025/2030年にとどまらず、より長期を見据えた永続的な枠組み

- ・2℃目標、「今世紀後半の排出・吸収バランス」など長期目標を法的合意に初めて位置づけ
- ・長期の低排出開発戦略を策定

**前進・向上する。
(Progressive)**

各国の目標見直し、報告・レビュー、世界全体の進捗点検のPDCAサイクルで向上

- ・世界全体の進捗点検(長期目標)を踏まえ、各国は5年ごとに目標を提出・更新
- ・従来の目標よりも前進させる
- ・各国の取組状況を報告・レビュー

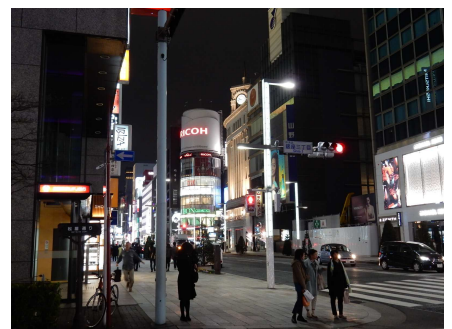
世界の気候変動対策の転換点、出発点

私としては、福岡県の温暖化防止活動推進員を拝命していたこともあり、未来の地球のために市や県や国や様々な団体と手を合わせて温暖化防止に努めてまいりたいと改めて決意したところである。

会議を終え、ホテルへの途中、約30年も前に時々来ていた街の姿がまるで変わってしまった「銀座」を散策することになり、第二のふるさとへの郷愁を覚えた次第。

今回の研修はグローバルな視点と国の最高決定機関の高度な交渉の姿の片鱗に触れることが出来、久しぶりに満足の行く内容であった。

参加できたことに対し、市民の皆様に感謝申し上げますと共に、この学びを市政に活かすよう頑張る所存である。



平成28年3月10日
田川市議員 植木 康太

注：COP：《Conference of the Parties》

条約を批准した国が集まる会議。一般に条約ごとに設けられる、その条約の最高意思決定機関。「COP5（第5回締約国会議）」のように、末尾に会議の開催回数をつけて表す。[気候変動枠組条約締約国会議](#)や[生物多様性条約締約国会議](#)などがある。[条約締約国会議](#)。